

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：情報化推進費

| |
|-----------------------------------|
| 事業名 新 デジタルデバイド対策事業費 |
|-----------------------------------|

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

総務部 デジタル戦略推進課 デジタル戦略係 電話番号：058-272-1111(内 2257)

E-mail：c11178@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 25,450 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|--------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 要求額 | 25,450 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 25,450 |
| 決定額 | 25,450 | 19,572 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5,878 |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

社会全体のデジタル化が進められる中、デジタル技術を使いこなせる方々と、そうではない方々の「デジタル格差」の解消が重要な政策課題となっている。

国の調査では、70歳以上の高齢者の方の約6割がスマートフォン(以下「スマホ」と言う。)などの情報通信機器を利用していないと回答があり、十分な支援が行き渡るようにすることが急務である。

県においても、誰一人取り残されないデジタル社会を目指し、機器に不慣れた高齢者等に対して身近な場所での重層的な支援を実施する。

(2) 事業内容

① 高齢者を対象とした「活用サポート」の実施

高齢者を対象に、健康増進等を目的としたアプリ等を活用し、日常的に楽しみながらスマホを活用できる仕掛けづくりを行うとともに、スマホ教室を開催し、高齢者のスマホ活用に係るリテラシーの向上を図る。

○スマホ活用促進イベント 月1回程度

- ・歩数計則アプリを利用した健康増進イベントの実施
- ・自身の健康管理方法の習得イベントの実施 等

○スマホ教室の開催 月4回程度

- ・スマホの基本操作（電話のかけ方、カメラ利用、メール送信 等）
- ・キャッシュレス決済の利用方法
- ・SNSの利用方法（LINE、インスタグラム 等）
- ・ネットショッピングの利用方法
- ・県の情報（防災情報の閲覧、医療機関の検索方法 等） 等

②高齢者と孫世代とのスマホを通じた「世代間交流」の実施

スマホを通じた世代間交流により高齢者のスマホ活用へのモチベーション向上を図るため、県内高等学校からモデル校（2校）を選定し、生徒と地元の高齢者との世代間交流を支援。

○地元に着したスマホ教室（世代間交流）の実施 各校2回程度

- ・スマホ教室の内容検討及びマニュアル作成は、モデル校の生徒が実施
- ・生徒が講師となり、地元の高齢者にスマホの活用方法を指導する形で世代間交流を実施
- ・県はモデル校における講師派遣等、世代間交流の開催を支援

○岐阜圏域におけるスマホ教室（成果発表会）の実施 各校1回

③地域で実施するスマホ教室等への「講師派遣」

県内全域できめ細やかな支援を実施するため、県内市町村や自治会等の各種団体が主催する高齢者等を対象としたスマホを活用するための会合等に、テーマに応じて県が選定した講師を派遣。

（3）県負担・補助率の考え方

デジタル技術を活用するうえで、デジタル格差の解消は喫緊の課題であると認識しており、国の取組みに加えて県においても、高齢者等に対し身近な場所で重層的な支援を実施すべきであり、県規模の支援等の費用を県として負担することは妥当である。

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|--------|--------------------------|
| 報償費 | 671 | 講師・プロポーザル評価委員謝金 |
| 旅費 | 200 | 講師・プロポーザル評価委員費用弁償、業務旅費 |
| 消耗品費 | 660 | 用紙購入、印刷費、新型コロナウイルス感染症対策費 |
| 委託料 | 23,194 | スマホ教室、スマホ活用促進イベント開催 等 |
| 使用料 | 662 | 会場使用料、情報通信機器レンタル料 |
| その他 | 63 | 通信運搬費、会議費 |
| 合計 | 25,450 | |

決定額の考え方

財源については、デジタル田園都市国家構想推進交付金を充当します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・自治体デジタル・トランスフォーメーション推進計画
(総務省 R2.12.25)
3.2 自治体 DX の取組みとあわせて取り組むべき事項
(2) デジタルデバイド対策
- ・岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進計画 (R3 策定予定)
政策の方向性として、「デジタルに不慣れな高齢者等をサポートする
仕組みの構築」を位置付ける予定

(2) 国・他県の状況

< 国 >

- ・全国約 1,800 箇所デジタル活用を支援する講習会を実施 (R3)
- ・地域社会のデジタル化に集中的に取り組むための経費の財源を措置
するため、普通交付税の算定方法に「地域デジタル社会推進費」を
創設 (R3・R4)

事業費 : 各年度 2,000 億円

(都道府県 800 億円程度、市町村 1,200 億円程度)

国において想定される取組み (例)

: デジタル社会の恩恵を高齢者など多くの住民が実感で
きるためのデジタル活用支援 等

< 他県 >

- ・高齢者を対象とした事業を実施 13 県 (R3) ※R4 実施検討中 17 県

(3) 事業主体及びその妥当性

県において、誰一人取り残されないデジタル社会を推進するため、事業主体は県となる。

事業評価調書（県単独補助金除く）

| |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 社会全体のデジタル化が進められる中、年齢、地域等の状況によらず、全ての県民がその恩恵を享受できる岐阜県を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (R) | R2 年度 実績 | R3 年度 目標 | R4 年度 目標 | 終期目標 (R8) | 達成率 |
|------------------------------|--------------|-------------|-------------|-------------|---------------|-----|
| | | | | | | % |
| ① 活用サポート ・スマホ教室、イベントの参加者数 | - | - | - | 延べ 420 人 | 延べ 2,100 人 | % |
| ② 世代間交流 ・モデル校数 | - | - | - | 2 | 10 | % |
| ③ 講師派遣 ・講師派遣回数 | - | - | - | 10 | 50 | % |

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|---------------|--|
| 令和 2 年度 | ・取組内容と成果を記載してください。 |
| 令和 3 年度 | 令和 5 年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |
| 令和 4 年度 | 令和 6 年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|---|---|
| <p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p> | |
| (評価) 3 | <p>社会全体のデジタル化が進められる中、誰一人取り残されないデジタル社会を実現するため、特に情報通信機器の利用割合が低い高齢者への支援が必要である。</p> |
| <p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p> | |
| (評価) | |
| <p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p> | |
| (評価) | |

(今後の課題)

| |
|----------------------------|
| <p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> |
|----------------------------|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| <p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>令和4年度の事業実施状況を踏まえ、引き続き高齢者等のスマホ活用に係る効果的な支援を、身近な場所で重層的に実施する必要がある。</p> |
|---|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|-------------------------------|-------|
| <p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p> | 【〇〇課】 |
| <p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p> | |